

【絶滅】すっかり滅びて絶えること。また滅ぼし絶やすこと。

「絶滅してしまえばいいのに。」と私が心の中で強く叫んだ。忘れもしない、四年前の暑い暑い夏の日のこと。

二〇一八年八月一日の夕方、事件は起こった。私がトイレのドアを開け、スリッパを履こうと下を向いたとき、スリッパの中からガサガサと黒い生き物が出てきた。ギョッとした。初めての出会いだった。私は、三秒くらい脳が停止したかのように固まり、少し涙目になった瞬間、全速力で逃げ出した。

「どこから入ってきたの？なんでスリッパの中に？ムリムリ、気持ち悪い気持ち悪い……。」と思いながら自分の部屋に引きこもってしまった。「もしかしたらトイレにまだいるかもしれない……。この部屋の中にだっているかもしれない……。」と思い、不安や恐怖、気持ち悪さなどで吐いてしまいそうだった。そんな中、私は、「ゴキブリなんて絶滅してしまえばいいのに……。」と強く願ったのであった。

数日後、洗面所やトイレなどに置かれた殺虫スプレーやゴキブリ退治商品を見て、ふと思った。「ゴキブリが絶滅してしまったら、この商品を作っている会社はどうなってしまうのだろうか。」と。当然、その会社のゴキブリ退治商品は売れなくなってしまい、その商品を製造している工場などが稼働しなくなる。

私は、ゴキブリが絶滅してしまったら生き物や地球にどんな影響が出るのかが気になり調べた。ゴキブリがいなくなってしまうと、植物の再生産速度に影響を与えたり、クモやヤモリなどの、ゴキブリを餌にする生き物がなくなってしまうたりと、生き物や地球に、さまざまな影響を与えることがわかり、「みんなが繋がっている」と感じた。ゴキブリは「害」だというイメージしか持っていなかったため、ここで見方を変えることができてよかったと思う。そして、少しずつあんなに嫌いだった虫たちに対して「絶滅」してほしいと願わなくなった。見た目や第一印象だけで勝手に決めつけるのではなく、相手のことをきちんとよく知ることの大切さを学ぶきっかけとなった。

私は、「必要とされていない生き物は存在しない。」と考えるようになった。どんなに嫌われているであろうゴキブリでさえ、必要とされてこの地球上に存在している。このことは、人間にも当てはまることではないかと、私は思うのだ。此の世に生まれたことには意味がある。「私はいらぬ。誰からも必要とされていない。」と感じている人は、まだそのときが来ていないか、必要とされていることに気づいていないかだと、私は思う。

私も、ゴキブリ事件に遭遇するまでは、

「なんで私って生きているんだろう。特にこれといった才能も特技も何もない。怠けてダラダラと過ごすことしかできない。ただの二酸化炭素を吐く、環境に悪い生き物。私っていらぬ生き物だなあ。」

と、自分の存在意義を漠然とだが、見失っていたときがあった。しかし、ほんの些細なことだが、私が存在していて良かったと思うような出来事があった。

ある日、自宅の台所にあるコンロの火がつけっぱなしになっていたのを発見したのだ。このとき、「私がいなかったらどうなっていたんだろう。火事になっていたら……。」と考えたら、とても怖くなった。それと同時に、「私っていらぬ生き物じゃなかった。」とも感じた。その日から、私はどんな些細なことでも人の役に立てれば「生きていていいのだ。」と、自分の存在意義を感じられるようになった。

だから、どんな辛い状況の中でも、「私なんていなくなればいい。」そう思い込む必要はないし、そう思わないでほしいと願う。自らを「絶滅」に追い込んでしまったら、必ず悲しむ人が生まれ苦しむ人が存在するはずだ。

皆さんは、自分の存在意義について考えたことがあるだろうか。自分の存在する意味や

価値、重要性を見つげたり、感じたりすることができると、自分自身に【自信】を持つことに繋がり、どんな辛いことが起きても乗り越えられる強い心を持つてはらずだ。そして、生きがいのある人生を送ることができるのではないだろうか。どんな立場の人でも一人一人に存在意義があり、それを追求することが「生きていく」ということなのではないかと思う。また、そのことを誰かと共有し、認め合うことで、生きていることを強く実感するのだ。今、辛い状況の中にいる多くの人が絶滅の道ではなく、生きる道を選択してほしいと、私は願わざるをえない。そんな世界にするために、私は何ができるか、考えて生きていきたいと思う。